

## 特集

# 訪問看護の 意思決定支援 いつ何をどう行なうことなのか

「最期は自宅で？ 病院で？」「胃ろうはつけるの？ つけないの？」

治療選択はもちろん、さまざまな局面で、本人そして家族に

「意思決定」が求められるようになっていきます。

でも、本人・家族にとつては何もかもが初めての体験、しかも一度きりのことです。

病気や障害があつてただでさえつらい状況なのに、

短期間で選択を行なわねばならないこともあります。

「意思決定」は、実は少なからず負担です。

時に、自分自身の意思がわからなかったり、そうでなくても、心はつねに揺れ動きます。

本人・家族の意思が対立することもあれば、

認知症などで本人の意思確認が難しいこともあるでしょう。

こうしたプロセスに寄り添う「意思決定支援」とは、具体的にはいったい何をする事なのか？

単に情報をわかりやすく提供し、選択肢を示すだけではないようです。

「訪問看護」の実践から、その人の生き方をエンパワメントする意思決定支援の要所を読み解きます。

